

## 学校評価について

学校評価とは

学校評価とは、川内市医師会立看護専門学校が、学校活動全般について自己改革を行うとともに、学生を専門職業人として育成できる教育に向き合い、学校の設置目的を達成するために行う評価のことです。

学校評価は教育機関としての機能を包括的に判定する学校関係者評価と、教員による教育方法と内容の評価である教員自己評価からなっています。それぞれの評価は下記通りです。

平成 29 年度の取り組みと評価

### <学校関係者評価委員会>

平成 30 年 3 月 19 日（月）に第 3 回学校関係者評価委員会を実施しました。

評価者：委員 6 名 参加者：学校長以下職員 5 名

以下課題に関する評価コメント（一部抜粋）

#### 「Ⅰ教育理念・目的・人材育成像」及び「Ⅱ学校運営」に係る課題

課題 1) 「課程変更（平成 31 年度、高等課程准看護科・定時制 2 年課程から全日制 3 年課程へ変更）の準備を進める中で、地域住民や中学、高校などへの広報を強化し、地域に貢献する学校としての知名度を高める。」について  
課題 2) 「設立理念である『地域に貢献できる人材育成』を目標とした新課程への開設準備を着実にこなう。」について

・『地域に貢献できる人材育成』の目標、理念に沿った学科目を設定し、その学科目に精通している講師陣を近隣の医療関係者や大学と連携して招聘し、カリキュラム準備や、申請計画書の作成なども着実に実施されている。また、高校訪問に加え中学校の進路指導担当者も訪問し、新課程開設案内等の情報提供強化をしている。知名度をあげる工夫として、FMラジオ・ポスター・プレオープンキャンパス・ホームページの更新・学校名入りベストを作成し市内の各行事に参加し着用するなどの努力もしている。

#### 「Ⅲ教育活動」に係る課題

課題 3) 「教員・学生共に自己目標を高くし、研鑽することを勧める。」について  
課題 4) 「資格試験・国家試験に向けた対策・指導等時間内におこなう。」について

・教員が体験学習やグループワーク・実技など、実習や現場で活用できるように取り組みを工夫して行っており、学生に応じた指導や相談を実施している。専任教員の要件を満たす人材の確保には困難をきたしているが、平成 30 年度に鹿児島県で専任教員養成講習会が開催されることから、研修未受講者の受講を予定している。人材確保、人材育成に絶えず取り組んでいる姿勢がみてとれる。

#### 「Ⅳ学習成果」に係る課題

課題 5 「学修成果・学生支援としての卒業生へのフォローのありかたを検討する。」について

・資格試験に不合格した者の受験体制づくりなどは支援しているが、他卒業生には特別なフォロー体制づくりはできなかった。

#### 「Ⅸ社会貢献・地域貢献」に係る課題

・「親と子の健康教室」や「まちの保健室」等への参加、「つくし園秋祭り・運動会への支援介助」やゴミ拾い奉仕作業実施等、可能な範囲で参加し意識づけが行われている。また、学校独自で臨床指導者・教員合同研修会を開催し、鹿児島県看護協会委託の再就業支援セミナー等を実施していることも地域に貢献している。

**学校関係者評価委員会、大項目評価の平均値(平成 30 年 3 月 19 日)**

評 価 項 目 (* 評価大項目及び付随する小項目内容そ項目数)	H27年度	H28年度	H29年度
	平均評点	平均評点	平均評点
I、教育理念・教育目的・人材育成像 * 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか等 5項目	5.0	4.5	4.8
II、学 校 運 営 * 目的等に沿った運営方針が策定されているか等 8項目	5.0	4.8	4.9
III 教 育 活 動 * 目標の設定、教育方法と評価、資格試験・国家試験教職員について等 14項目	4.6	3.8	4.2
IV 学 修 成 果 * 資格取得率の向上が図られているか、卒業後のキャリア形成への効果を把握し 教育活動改善に活用しているか等 5項目	2.6	2.5	2.3
V 学 生 支 援 * 進路・就職に関する支援体制は整備されているか等 8項目	4.2	4.4	4.1
VI 教 育 環 境 * 施設・設備は、教育上の必要性に対応できるよう整備されているか等 3項目	5.0	5.0	4.7
VII 学 生 募 集 * 学生募集活動は、適正に行われているか等 4項目	5.0	4.9	4.8
VIII 法 令 等 の 遵 守 * 法令、専修学校設備基準等の遵守と適正 な運営等 4項目	4.2	4.8	4.8
IX 社会貢献 地域貢献 * 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献・ボランティア活動をしているか 3項目	3.6	5.0	4.7
総項目平均評価点	4.4	4.4	4.4

< 教員自己評価 >

各評価内容別平均値での比較		H26	H27	H28	H29
I、教育課程 教授活動	1. 授 業	2.7	3.4	3.4	3.4
	2. 実 習	2.9	3.4	3.4	3.3
	3. 学 級 運 営・指 導	3.2	3.6	3.5	3.4
	4. 資 格 試 験	3.0	3.3	3.3	3.3
	5. 行 事 ・ 他	3.5	3.8	3.7	3.4
II、研究・研修	6. 研究 ・ 研修	2.3	3.2	3.3	3.2
III、組織運営 広報活動	7. 組 織 運 営	3.3	3.7	3.7	3.4
	8. 学 生 募 集	2.5	3.1	3.2	3.4
	9. 施 設 設 備	2.8	3.5	3.6	3.5
総 合 平 均 点		2.9	3.5	3.5	3.4

平成 30 年 1 月実施

教員自己評価では、「I,教育課程・教授活動」が 21 項目、「II,研究・研鑽」が 3 項目、「III,組織運営・広報」が 11 項目、3 分野 35 項目について 5 段階評価を行い、自己の取り組みの改善を図っています。

平成 29 年度教員自己評価結果 (一部抜粋)

- ・「教育課程・教授活動」の「授業」は、教員の移動があり担当科目も変わり準備等が不十分グループワーク等授業方法を工夫しており、学生の授業評価もよかった。
- ・「実習」は実習目標・到達度を明確にし、実習指導者との連携を密にするよう重点的に取り組みをしたが、指導者・実習場所によって差があり、教員・学生共に評価は変わらなかった。
- ・「学級運営・指導」は、退学、留年、復学とクラスのメンバーが変わったり、課題のある学生の在籍など諸要素から、学業

に専念するようクラス運営ができなかった。

- ・今年度は「学生募集」がなかったが、新課程の広報としてオープンスクールを企画し、成果はあった。
  - ・「施設整備」は、校舎改築等の検討、備品点検など実施したが、現状変化はなく、空調故障などで評価が低くなった。
- 次年度は3名の教員が長期研修に参加する予定。協力を密にし、現課程最後の学生全員の卒業と資格試験・国家試験に合格をさせると共に希望をもって入学する新課程の学生の期待に応えられるよう準備をしていく。